



上向台小だより

4月号

西東京市立上向台小学校

令和7年4月7日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

自立した学習者の育成に向けて

～学びのスタイルを自分でデザインできる子どもたちへ～ 校長 酒見 裕子

春のやわらかい光があふれる中、子どもたちの入学と進学を祝うかのように、南門にある桜が咲き誇っています。

今年度は、新たに120名の新1年生を迎え、児童数741名、24学級で令和7年度がスタートしました。お子様の御入学、御進級、おめでとうございます。

入学・進級にあたり、子どもたちは期待に胸を膨らませていることと思います。今年度も子ども一人一人を大切に、そして保護者の皆様、地域の皆様の期待に応えられるよう、教職員一同、教育活動推進に最善を尽くしてまいります。

さて、3月28日、次の学習指導要領の方向性を議論している中央教育審議会教育課程企画特別部会の第4回の会議を、オンラインで傍聴しました。

その会議では、様々な個性や特性のある児童が在籍している実態を踏まえ、「多様性を包摂し、一人一人の可能性を開花させる教育の実現」が喫緊の課題として挙げられ、そのために考えられる方策等が議論されていました。

その議論を傍聴している中で、コロナ前にシリコンバレーのSTEAM教育に力を入れている小学校に視察に行ったことを思い出しました。

当時、視察に行き、一番驚いたことは、教室環境や授業の進め方が、日本で多く見られる教室とは大きく異なることでした。日本では、全員が黒板のある前を向き、前にいる教師の話を聞いて学ぶスタイルですが、見学させていただいた学校では、教室の前がどこなのか、教師がどこにいるのかなど、すぐには分かりませんでした。

子どもたちは、自分で学習計画を作成・確認するとともに、自分の学びの場を自分で選び、主体的に学んでいました。グループで学んでいる子、壁に向かって置いてある机で学んでいる子、床に座ってペアで学んでいる子、一人で静かに学んでいる子、教師と一緒に学んでいる子など、それぞれが自分に合う場を選んで学習していました。

そのときに教室や授業とはこうあるものであるという先入観を取り払い、学習者にとって学びやすい環境とはどのような環境なのか、柔軟に考えていく必要があると感じました。

そして、このときの経験を基に、当時勤務していた自治体の「不登校特例校（現：学びの多様化学校）」の新設に生かしていきました。「学びのスタイルを自分でデザインできる教室」、「どこで、誰と、何を、どのように学ぶのかを自分で決める！選択する！」をキャッチコピーに据え、「学校っぽくない学校を作りたい！」というコンセプトを掲げ、役所内の財政部局や社会教育関係の部署に掛け合ったり、民間企業等と連携したりして、不登校生徒のためのカリキュラムや環境を整えました。

一方、日本の多くの学校の環境や子どもたちの様子はどうでしょうか？

「みんな一緒に」、「みんな同じことを」、「同じ方法で」学んでいることが多いようです。しかし、子どもたちは一人一人学びのスピードも、興味・関心も、得意・不得意も、認知特性も違います。様々な子どもたちがいる中で、教師による一方向の一斉授業のスタイルは、異なる一人一人に合う学びを届けることには限界があると感じています。これからの教師に求められるのは、学びの主体である子どもが、自分自身にとって最適な学びとは何かを、自分自身で判断しながら、自立して学び進めることができるように支援することです。このように考えると、不登校特例校だけでなく、どの学校やどの学級でも「学びのスタイルを自分でデザインすること」が求められていると言えます。

本校では、学校での学び方が子どもたちを主体としたものになってきています。学習課題や学習方法を自己選択・自己決定する学びも多くなり、一人一台端末を教師が教えるための道具ではなく、子どもが学び、考え、表現するための道具として使うようになってきました。また、自分なりの課題を立て、個々のスピードに合わせて、自分のペースで自分から学んだり、困ったときには様々な人と対話し、共に学び合ったりしています。先ほど紹介したシリコンバレーで見たような教室の風景が、本校ではよく見られるようになってきているのです。

今年度も、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るとともに、教師主体の一斉・一律な授業スタイルだけでなく、子どもたちが学びのスタイルを自分でデザインできるようにするなど、子どもたちが生涯学び続けることができる「自立した学習者の育成」を目指し、教育活動を進めてまいります。

また、今年度、本校では、東京都教育委員会「小学校教科担任制等加配校」、「校内別室指導支援員配置事業実施校」、西東京市教育委員会「自立した学習者の育成」研究指定校に指定されています。児童一人一人の学習進度や興味・関心に応じて学ぶ方法等を選択できるような環境を整えるなど自立した学習者の育成に向けた取組や、よい変化を起こそうと、自分で課題を設定し振り返り、責任をもって行動する力の育成、さらに高学年では、教科担任制を実施し専門性の高い教科指導を進めてまいります。

今年度も本校の教育活動への御理解と御支援をどうぞよろしくお願いいたします。



昨年度の本校の実践が掲載されているデジタルブック「TOKYO LEARNING STYLE デジタルを活用したこれからの学び」
<https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/koremanga/digitalbook/#page=53>